



2017. 7. 1

7月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

今年の梅雨は雨も降らず、良い天気が続くなあ、稲作が心配だ、などと思っていたら、プールを組み立てた途端、いかにも梅雨らしい毎日になりました。幼稚園のプールは60~70cm位の深さになるように水を入れるので、よく晴れた日が数日続けば水温はかなり上がるのですが、この「ちとせだより」を書いている6月27日の水温は23~24℃、まだ冷たいままです。

さて、職員室から園庭に出たところに唐楓(トウカエデ)の木があります。2階の屋根に届く高さになり、枝葉も繁って園舎の壁時計を隠してしまっているのです、この数ヶ月、どのように剪定するかを考えています。

先日の朝も、登園する子どもたちが途切れたところで、唐楓を見上げて、切る枝、残す枝を考えていました。木の姿形がヘンテコにならないように、時計が園庭から見えるように、子どもたちの木登りを妨げないように、と思案していたら、「登ったろか?」と、お腹のところで声がします。

枝に何かを引っ掛けたてしまったとか、困っていたのではないので「登ったろか?」の意味が直ぐには判りませんでした。返事をできずにいると「ぼくが登ったろか?」と、もう一度聞いてきます。彼の目は「園長先生、助けてあげる。」と輝いています。

「うん。(君が)自分(の力)で下りられる処まで。」と応えると、「そんなん、わかっとう。」言いながら、慣れた動きで登っていきます。『登りたいけど登れなくて困っている園長先生』の代りに。

あの辺りまで行ったら聞いてみよう、高いところにいる感じ、木の手触り、風は吹いているか、それから…と考えていたら、「うわ!ありんこがいっぱいや。気持ちわる!」と、さっさと下りてきました。確かに、根元から枝の先の方へ、蟻の列が出来ています。

「…蟻んこ、気持ち悪い?」「?。きもちわるいやん、ありんこ」と怪訝な顔をしたかと思うと、三角ログハウスの方へ走っていきます。一仕事終えた充実感を背中に漂わせて。

ダンゴ虫の方が気持ち悪いと思うけど…。でも、助けてくれてありがとう。みんなにいっぱい助けてもらって、先生は幸せです。枝は、切らないほうが良いかもしれないね。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です」

(エフェソの信徒への手紙 5章 1節)

7月主題 『やってみる』

<聖句> 「天よ、喜び祝え、地よ、喜び踊れ」

(詩編 96編 11節)